

第1分科会「日本語教育」

分科会の報告と討議のまとめ

1. 分科会の報告と討議

報告レポートは2本。

討議の柱は、①「言葉の力」を大切にしながら、平和・人権・環境・労働・共生などについて、どんな教材をどのような手立てで授業をしたのか。②その結果、児童生徒がどのような力をつけることができたのか、であった。

第1日目のみで午後から実施し、レポート報告と討議、昨年度の全国教研報告と各支部でのとりくみ報告、次年度の全国教研レポートの正会員候補の選抜を行った。

今年度のレポートは、物語1本、表現1本であった。

【物語】1本（小学校）

浮羽三井（小学校）：光村ライブラリー「三人の旅人たち」

新型コロナウイルス感染防止の影響を受け、限られた学習時間の中で実践できる教材開発を試みた。感染予防のためにできなくなったたくさんのことはあるにしても身近にある幸せについて考えさせたいという課題のもと、日本語として吟味された言葉が使われている、かつて5年生の教科書（光村）に入っていた教材を分析し実践した報告。

限られた時数の中で、3時間で授業を行ったという報告に、『『本当の幸せって何だろう。』と考えさせられるいい教材なのでしっかりととりくませたい、4時間は確保したい。』という意見が出た。「ぜひ中学校でもとりくみ、『幸せとは何か』について考えさせたい教材である」という意見が出た。

【表現】1本（小学校）

八女（小学校）：生活つくり方による表現活動

生活つくり方による日記や交換ノートを通して、自分の生活を見つめ、詳しく書く技能はもちろん、児童と担任、児童と児童をつなぐとりくみを行った実践報告。

感染予防で、なかなか会えない子どもたちと日記を通してつながり、交換ノートを使って児童どうしもつなげていったとりくみと子どもの日記に書かれた先生のコメントのすばらしさに称賛の声が多くあがった。文の書かせ方や注意点、意欲の持たせ方など、実践してみたいと考える参加者からの質問や意見が多数出た。

2. 来年度への課題

今回の分科会は新型コロナウイルス感染症予防のために、各支部1名ずつの参加という条件の下行われた。現場は授業時数の確保、行事の内容や時期の変更などによって多忙な中、教材研究し実践された貴重な2本のレポートを通して討議しあえたことは、意義深かった。言葉で自分を振り返り、心を見つめ、他人とつながっていくことの大切さや、ものの見方・考え方、言葉を使って伝え合う力をどのようにつけていくのかについて、考えることができた。

新しい生活様式を余儀なくされ、今後も大きく変化していこう社会で、力強く生き抜くために、ものの見方・考え方や「言葉の力」をつけることは、今後も日本語教育分科会の課題であることを確認しあえた。

共同研究者からは、「2本のレポートだったがしっかり協議ができてよかった。レポートを聞くと（よく考えられていて）すごいと思うが、質問が出てくるとまだまだ足りないところがあると気付かされる。」

「授業は標準語で行うが、地方には豊かな言語が残っている。適切な表現の指導も必要だが、その土地にあるすばらしい表現・言語を教えていくことも大切である。新型コロナウイルス感染症予防の現実の中であってもつながっていくための表現を考えていきたいものがある。」との助言をいただいた。